

食品健康影響評価の基礎となったデータ

- インドの自然放射線量が高い（累積線量500 mSv強※）地域で発がんリスクの増加がみられなかった報告

(Nair et al. 2009)

白血病による死亡リスク

被ばくした
集団



被ばくして
ない集団

統計学的に比較

200mSv ※以上でリスクが上昇
200mSv ※未満では差はなかった

(Shimizu et al. 1988 広島・長崎の被ばく者におけるデータ)

※被ばくした放射線がβ線又はγ線だったと仮定して、
放射線荷重係数1を乗じた

がん※※による死亡リスク

被ばく線量
0～125mSv
の集団

被ばく線量
0～100mSv
の集団

被ばく線量が増えると
リスクが高くなることが
統計学的に

確かめられた

確かめられず

(Preston et al. 2003 広島・長崎の被ばく者におけるデータ)

※※対象は、固形がん全体

食品健康影響評価の結果の概要

(平成23年10月27日 食品安全委員会)

- 放射線による影響が見いだされているのは、
生涯における追加の累積線量が、およそ100 mSv以上
(通常の一般生活で受ける放射線量 (自然放射線やレントゲン検査など) を除く)

- そのうち、**小児の期間については、感受性が成人より高い可能性**
(甲状腺がんや白血病)



- 5歳未満であった小児に白血病のリスクの増加
(Noshchenko et al. 2010 チェルノブイリ原子力発電所事故におけるデータ)
- 被ばく時の年齢が低いほど甲状腺がんのリスクが高い
(Zablotska et al. 2011 チェルノブイリ原子力発電所事故におけるデータ)
《ただし、どちらも線量の推定等に不明確な点があった》

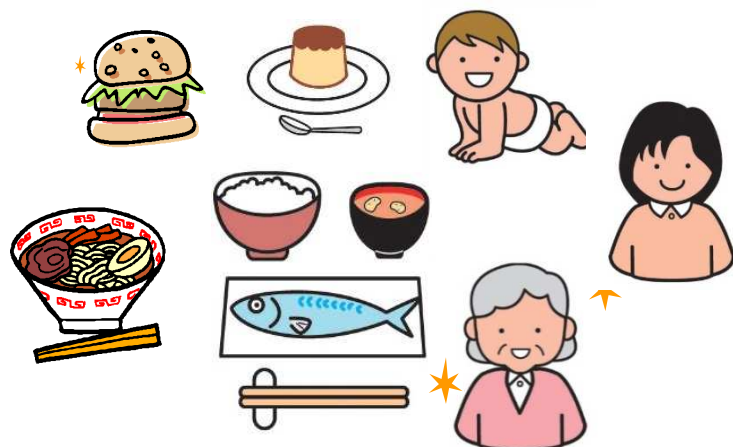
- **100mSv未満の健康影響について言及は難しい**



- 曝露量の推定の不正確さ
- 放射線以外の様々な影響と明確に区別できない可能性
- 根拠となる疫学データの対象集団の規模が小さい

「おおよそ100mSv」とは

- 安全と危険の境界ではなく、食品についてリスク管理機関が適切な管理を行うために考慮すべき値
- これを超えると健康上の影響が出る可能性が高まることが統計的に確認されている値



食品からの追加的な
実際の被ばく量に適用
されるもの

ご清聴ありがとうございました

内閣府 食品安全委員会ホームページ

<http://www.fsc.go.jp>

食品安全委員会

検 索



内閣府食品安全委員会は、食品に含まれる可能性のある農薬や食品添加物などが健康に及ぼす影響を科学的に評価する機関(リスク評価機関)です。

食品安全委員会や意見交換会等の資料や概要、食中毒等特定のトピックに関する科学的知見等をホームページに掲載しています。

。

ご清聴ありがとうございました

公式 Facebook ページ



<http://www.fsc.go.jp/sonota/sns/facebook.html>

食品の安全性に関する身近な情報をお伝えています。

食品安全 フェイスブック

検 索



「いいね！」をお願いします

メールマガジン

<http://www.fsc.go.jp/e-mailmagazine/>

食品の安全性に関する情報を
3つの種類のメールでお届けしています。

【ご登録方法】

ウィークリー版

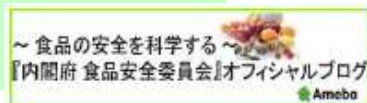
読物版

新着情報

情報がメールで届きます！
メールマガジン配信登録
Mail Magazine

ホームページ左側、
こちらのバナーをクリックして
ください♪

オフィシャル ブログ



http://www.fsc.go.jp/official_blog.html

食品の安全性に関する情報やメール
マガジン【読物版】をブログでもお
伝えしています。

食品安全委員会 ブログ

検 索